

# 初開催「ビブリオバトル in SFC」

とけし  
渡慶次りさ

(政策・メディア研究科修士課程2年)

## 1 はじめに

2014年6月25日(水)、湘南藤沢メディアセンターとメディアセンターフレンズ(以下、フレンズ)の共同企画「ビブリオバトル in SFC」を、メディアセンター内で開催した。フレンズは、メディアセンターのイベントを提案・実施する学生スタッフ(2014年7月現在4名)のことである。

湘南藤沢キャンパス(以下、SFC)では、学生が授業の中で発表をする機会が多いものの、パワーポイントを使用した発表が多い。そのため、ことばだけで表現するビブリオバトルは、「SFCっぽくないからこそ、より期待できるイベント」として開催された。

本稿は、企画者と参加者にとって、新たな知の交流の場、人と本、人と人の出会いの場となった「ビブリオバトル in SFC」について紹介する。

## 2 ビブリオバトルとは

現在ビブリオバトルは、全国各地で開催されているが、「ビブリオバトル in SFC」が実施されるまで、本学において開催されたことはなかった。そこでまず、ビブリオバトルについて紹介する。

ビブリオバトルには、“知的書評合戦”というサブタイトルがついている<sup>1)</sup>。このサブタイトルだけを見ると、堅苦しい、難しいというイメージを持ってしまおうだろう。しかしビブリオバトルでは、“気軽に、楽しく本を楽しむ”、“発表者と聴衆のコミュニケーションを大切にすること”を大切にしている。

ビブリオバトルの全体像をつかむには、ビブリオバトル普及委員会が定めた「公式ルール」を知ってもらうのが手早いだろう。その公式ルールは、以下の4つの項目<sup>2)</sup>から成り立っている。

- (1) 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- (2) 順番に一人5分間で本を紹介する。
- (3) それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。

- (4) 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

またビブリオバトルには、大事にしているコンセプトがある。それは、気軽に集まってできるという意味が込められた“本のフットサル”、“本を通して人を知る 人を通して本を知る”の2点だ。

これらのルールやコンセプト等を理解し、それらに込められた想いを大切にしながら、本学で初めてとなるビブリオバトルの開催を試みた。

## 3 ビブリオバトル開催まで

フレンズは、さまざまなイベントの実施にむけた打ち合わせをメディアセンター職員と行っている。その中で、イベントに参加したことのある職員がおり、現在話題になっている「ビブリオバトル」をSFCで開催してみたらどうかという提案がなされ、本イベントの開催が決定した。

ビブリオバトルの発表参加者(以下、パトラー)は、メディアセンターのHPで募集した。そして5名のパトラーが決定し、職員がパトラーと個別に面談やメールでの連絡を行い、準備を進めた。

イベントにむけての広報は職員が、メディアセンターのHP、Twitter、Facebookで行ったほか、ポスターはフレンズが作成し、掲示した。



図1. ポスター(作・及川杏)

またフレンズのFacebookページでの広報も行った。初開催のイベントを広報するという事で、イベント実施日までに、より多くの学生にビブリオバトルについて知ってもらうことを目指した。そのしかけとして、ビブリオバトルに関する詳細や動画が見られるウェブサイト<sup>3)</sup>のリンクを貼り、それらを「イベントに参加するのがより楽しくなるポイント」として分かりやすく、簡単なことばで紹介した。

#### 4 ビブリオバトル開催

ビブリオバトル開催日は、比較的学生が集まりやすい水曜日の16:30~17:30に設定した。開催場所は、メディアセンター1階オープンエリアの入館ゲート近くにある展示スペースに設けた。

イベント開催直前に初めてバトラー5名が集合し、じゃんけんで発表順を決めた。なお司会・進行はフレンズが担当したが、初めてのイベントであることを考慮し、ビブリオバトルのコンセプト等を分かりやすく、楽しく紹介するように努めた。

イベント準備段階では、観客数やイベントの雰囲気はどのようなものになるかに不安があったのだが、観客席は多くの学生で埋まり、笑いも生まれる温かい雰囲気の中で行われた。



図2. イベント開催時の様子

バトラーが紹介した本は、以下の5冊である。

- 『地球の歩き方、香港』/「地球の歩き方」編集室
- 『燃えよ剣』/司馬遼太郎
- ★ 『大学教育について』/J.S.ミル
- 『クレイジーパワー』/

ジョン・エルキントン、パメラ・ハーティガン

- 『宇宙の扉をノックする』/リサ・ランドール
- それぞれの個性的な5分の中で、本への想いと、そこに映し出された彼ら自身をも見ることができた。



図3. バトラー発表中の様子

最後の投票では2名が同票だったため、その2名が各30秒間の決選スピーチを行うという「SFCルール」が実施された。そして決選投票により、チャンプ本が決定した(★マークの本が、今回のチャンプ本)。

#### 5 おわりに

ビブリオバトルの発表でバトラーに必要な道具は、紹介する本と、それを紹介するバトラー自身のみである。そのため、バトラーは参加者の目を見て発表をし、参加者はバトラーの目やふるまいを見て、じっくりと話を聞いていた。パワーポイント等の発表資料に目が行ってしまう授業での発表に対して、ビブリオバトルにおけることばの持つ力、伝わる力ははるかに強かったように感じる。

今後はSFC生だけではなく、他キャンパスに所属する学生と行う、キャンパスを越えたイベントになれば、更に多様で多彩な交流の場となるだろう。

そして10月に、第2回「ビブリオバトル in SFC」の開催が決定している。また新たな本や人との出会いが生まれることを楽しみにしている。

#### 注・参考文献

- 1) ビブリオバトル普及委員会. ビブリオバトル入門: ~本を通して人を知る・人を通して本を知る~. 東京, 情報科学技術協会, 2013, 158p.
- 2) 谷口忠大. ビブリオバトル: 本を知り人を知る書評ゲーム. 東京, 文藝春秋, 2013, 262p.
- 3) 知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト.  
<http://www.bibliobattle.jp/>, (accessed 2014-07-15).